

2021年度 株式会社ジェイコム九州北九州局 放送番組審議会 議事録

- 【開催日時】 2021年3月2日（水） 午前11時00分～午後12時30分  
【場 所】 株式会社ジェイコム九州北九州局 大会議室  
【出席者】 放送番組審議委員：6名中6名出席 ※敬称略・順不同

《会長》

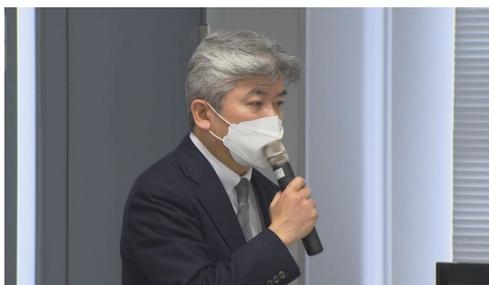
鹿毛 浩之（公益財団法人 地域環境戦略研究機関 北九州アーバンセンター 所長）

《委員》

- 甲木 正子（西日本新聞社 執行役員 北九州本社代表）  
仲道 辰郎（株式会社ゼンリン 執行役員 本社統括本部 総務人事本部 本部長）  
梯 輝元（魚町商店街振興組合 理事長） ※リモート参加  
久保山 雅彦（公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 理事長）  
中尾 基（国立大学法人九州工業大学 副理事 工学研究院 教授 博士）

放送番組審議会事務局：9名出席

- 上村 忠（株式会社ジェイコム九州 代表取締役社長）  
山田 耕司（株式会社ジェイコム九州 北九州局長）  
藤野 慶太（株式会社ジェイコム九州 北九州局 地域プロデューサー）  
大久保 智美（株式会社ジェイコム九州 北九州局 地域プロデューサー）  
篠原 有（JCOM株式会社 映像制作第一部 リージョナルマネージャー）  
本田 憲生（JCOM株式会社 映像制作第一部 北九州事務所長）  
今村 修（JCOM株式会社 映像制作第一部）  
大津 義彦（JCOM株式会社 映像制作第一部）  
今石 珠貴（JCOM株式会社 映像制作第一部）



## 【開 会】

### 1) 事務局挨拶（株式会社ジェイコム九州 上村代表取締役社長）

コロナの感染でこれまでとは違う世の中になった。

J:COMは放送と通信の事業を行っている。地域のために何ができるのかを考えながら、できることを模索しながら、取り組んでいきたい。

今年度、オリンピック・パラリンピックの放送を行った。NHKや民放では放送されない競技を放送。このような新たな取り組みを途絶えさせず、継続して取り組んでいく。

ローカルでは、2021年3月に北九州市と「災害発生時における地域支援のための人員および車両等の提供に関する協定」を締結した。災害時に人的支援を行うなど、アナログ面でも地域貢献に取り組んでいく。

限られた時間ではあるが、今年度の番組に対して、お話をさせていただく。本日は、忌憚のないご意見・ご指摘を受けたまわり、地域の皆さまに密着した生活に役立つ番組制作・編成に取り組んでいきたいと考える。

### 2) 議事進行（鹿毛会長）

委員6名のうち6名出席につき、放送番組審議会規程第4条に基づき当会は成立。

### 3) 新委員挨拶

久保山 雅彦（公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 理事長）

中尾 基（国立大学法人九州工業大学 副理事 工学研究院 教授 博士）

#### 4) 昨年度審議会での意見についての対応・経過報告（事務局）

意見：防災関連情報の積極的な発信について

対応：J:COMでは、コミネット（地域情報・緊急情報・自動表示サービス）を導入している。

このシステムを使い、8月の大雨・台風9号において、自治体発表情報（注意喚起、避難所開設情報など）を警報解除まで画面をL字にして掲出。2交代制で24時間対応。特別番組も放送した。地域に安全安心をもたらすことを目的に引き続き防災対応に努めていく。

意見：SNSの積極的な利用について

対応：2021年4月にTwitter「J:COMチャンネル北九州」を立ち上げた。それにより、情報発信だけでなく、広くアンケート収集ができるようになった。今後も情報収集の手段の1つとして利用していく。

意見・要望：ど・ろーかるアプリの活用について

対応：アプリの改善に継続的に取り組んでいる。より多くの人に見ていただけるように配信コンテンツを増やした。ニュース情報番組はライブでも見られるが、認知度が低いことが今後の課題だ。

#### 5) 番組編成方針説明（事務局）

コミュニティチャンネルの運営にあたり「地域にとって必要不可欠な存在になること」を最大の目標としている。地域のニーズに応え地域創生に貢献することが番組編成の方針である。それらを実現させるため、今年度の番組制作には3つの方針を掲げた。

一点目が「地域情報を発信するメディアとしての価値向上」。

情報収集、情報の差別化、情報の質の向上を目標に置き取り組んだ。

二点目が「地域との関係強化」。情報収集や取材時において継続的につながり、地域との接点を増やすよう取り組んだ。

三点目は「労働環境づくりと人材育成」。コンプライアンス遵守の徹底とプロフェッショナル人材の育成に力を入れた。

## 6) 2021年度自主制作番組実績（事務局）

レギュラー番組は、15コンテンツ。カテゴリーは、ニュース番組や地域探訪番組など。このうち「LIVEニュース」は、スタジオをとびだし、JR小倉駅JAM広場から地域の今を紹介。2021年8月に終了した「ジモト応援！北九州つながるNEWS」をステップアップさせた番組である。「北九州人図鑑」・「ギラチャンネル」は放送終了となるが、人にスポットをあてたものや地元のスポーツを応援するものなどは、カタチをかえ来年度新たな番組を放送する予定。全国統一コンセプトの新番組「ふくあじ」を2022年1月より放送を開始した。九州・山口のグルメ情報を紹介している。

また、災害対応としては、地域情報・緊急情報・自動表示サービス「コミネット」を使い、自治体発表情報（注意喚起、避難所開設情報など）を掲出。情報発信している。

一方、特別番組は、「中間市長選挙・中間市議会議員一般選挙 開票速報関連情報番組」、「夏の高校野球2021 福岡大会」、「北九州三大祭りアーカイブ」、「令和3年度ジェイコム九州杯少年ソフトボール大会」、「本音で語る市長と若者とのクロストーク」の5本を制作放送した。また受託番組として、「2021わっしょい百万夏まつり」、「ワンちゃんチェキ散歩」、「ニュース55北九州」を放送した。

その他、大学生の自主制作を番組化した、北九州市立大学映像制作集団ロマンダムによる「ON AIR!ロマンダム」を放送した。

全国放送のJ:COMテレビ(12ch)では、東京2020オリンピック・パラリンピックを放送した。

## 7) 2021年度自主制作番組に対する質疑応答

委員：「ギラチャンネル」後継番組について伺いたい。

事務局：来年度、スポーツ番組を放送予定。

プロだけでなく、アマチュアスポーツも紹介していく予定。

Jリーグ試合映像は、権利関係の問題で放送できていない。

試合映像だけにこだわらず、スポーツ団体の活動など周辺情報も取り上げたい。

委員：「ふくあじ」について「おふくろのあじ」という表現が引っかかる。

料理は母親だけがするものではない。SDGsを掲げている企業にはなじまない。

表現に注意する必要がある。

事務局：内容は「おふくろのあじ」を前面にだしたものではない。

番組を説明する際、表現には気を付けたい。

委員：サッカーだけでなく、フットサル・ラグビーなどほかのスポーツを支援する  
予定はあるか？

事務局：番組では、積極的に取り上げていく。プロスポーツへのスポンサーも検討して  
いるが、配分が難しい。番組を通じ、各スポーツを応援していきたい。

委員：アイドルを起用するなど、学生（若者）の視聴をつかむような番組があるとよい。  
コミュニティチャンネルはどの世代をターゲットにしているのか？

事務局：現状、視聴ターゲットは漠然としている。BS・YouTubeとの差別化が難しい。視聴  
エリアもあり、どの世代をターゲットにするのか試行錯誤している。学生目線の  
番組制作という点では、立命館アジア太平洋大学（APU）の留学生の視点で大分の  
魅力を紹介する番組をJ:COM 大分ケーブルテレコムとNHK大分放送局が共同で制  
作した。大学とNHK、ケーブルTV、多様な世界観が感じられた。J:COMでは、この  
ような企画に取り組むことができる。地上波を目指さず、J:COMの独自性をだして  
いきたい。ケーブルTV独自の視聴ターゲットをうちだせるよう議論を重ねていく。

委員：スポーツ・グルメ・レジャーなど、カテゴリーにとらわれない番組構成を考えて  
みてはどうか。そのような番組であれば、幅広い世代の方々に興味を持ってもら  
えるではないか？

事務局：「コロナ禍、必要な情報とは何か」議論を重ねてきた。カテゴリーにとらわれず  
様々な団体から情報を集め、ネットワークづくりもすすめている。どのような情  
報が地域に必要なのか、更には情報の質を高めることに注力した。ご意見を参考  
に、幅広い世代に見てもらえるような番組作りに取り組んでいきたい。

委員：選挙特番はよい。終了まで数字を出す点は、ケーブルTVの強みだと思う。

事務局：選挙関連の情報は、地域に有益な情報だと考える。エリア内の選挙特番は引き続  
き行っていく。

委員：災害時の対応に関しても引き続き力を入れて頂きたい。気象は、地域によって違  
う。きめ細やかな情報を出していただけると地域の人たちは安心する。

事務局：遠賀川水系の河川カメラ映像を使用することができるようになった。災害時に役  
に立つ。情報を正確にタイムリーに放送できる方法を模索している。

8) 番組審議「LIVEニュース」

《質疑応答》

委員：コロナ関連の情報がきめ細やかに発信され役立った。

かたい内容のものはきっちりと紹介されており、わかりやすい。

生活するうえで参考になる。

委員：黒崎商店街ひな祭り行事では、市民の方が出演イベントを紹介していた点が良かった。市民の思いがダイレクトに伝わった。LIVEなので街の様子、人の様子で画面から伝わる。その時の気候がわかる。外出する際の参考にしている。

委員：JR 小倉駅前をキーステーションとして放送しているが、いまの放送内容ではスタジオでなく外でやる意味・メリットを感じない。市民参加型（道行く人の出演してもらうなど）であれば、外でやるメリットはあると思う。また、コロナ感染者数だが、区ごとの数字は必要ないと感じた。積雪によるトラブルに関しての話題が放送されたが、このような放送は非常に良い。積雪の際は、車によるトラブルもあるが、雪道でころんでケガをするというトラブルも多い。積雪時の車のトラブルに加え、雪道の歩き方なども紹介すればもっとよかった。

事務局：外に出ることで街の動きを出したい。

外（街）の様子をよりリアルに伝えられるよう番組構成、演出など努力する。

キーステーションに関しては、いろいろな意見がある。いただいた意見を参考に検討したい。

委員：MC が情報を説明するのではなく、専門家が解説するほうが伝わりやすい。

MC1人なので番組進行が単調に思えた。

事務局：専門家に解説いただいた放送回もある。

いただいたご意見を参考によりよい番組作り、放送に取り組んでいく。

委員：スタジオ（キーステーション）と中継先の音質、音量に差がある放送回があった。

もう少し、MCの衣装に配慮が必要なのではないかと思う。（ラフすぎるのでは）

事務局：改善に向け検討する。

ライブ感・地域を元気に・課題解決の三点にこだわり制作している。

今後も試行錯誤しながら番組制作に取り組んでいきたい。



9) 鹿毛会長退任あいさつ

北九州局の放送番組審議会は4期務めさせていただいた。座長は3回務めさせていただいた。これからは地域の時代。地域密着のケーブルTVを見続けていきたい。

10) 閉会挨拶（株式会社ジェイコム九州 山田局長）

あたたかい意見、厳しい意見など、いただいた意見を真摯に受け止め、さらにより番組、サービスの提供に努めていく。弊社のミッションは地域社会への貢献。地域に対し何ができるのか今後も追及していく。委員のみなさまから頂いた貴重なご意見は、今後の番組制作及びJ:COMのサービスに活かしていきたい。今後とも、J:COMへのご支援を宜しくお願い申し上げます。

以 上